

熱中症に関する意識調査結果

令和7年3月3日

意識調査の実施方法

熱中症対策の施策の充実に向けて、一般の国民（モニター）を対象に、熱中症に関する意識調査を実施

熱中症に関する意識調査（一般国民・モニター）

調査目的：熱中症及びその対策についての理解、並びに熱中症対策に関する施策の認知及び理解の状況を把握する

調査期間：2024年11月13日（水）～11月16日（土）

調査手法：調査会社（株式会社ネオマーケティング）のモニター会員を活用したインターネット調査

対象者：各都道府県ごとに200名（15歳以上の男女、年齢構成は以下の表の通り）、全国合計9,400名の回答を回収。

各都道府県の対象者200名の内訳 (我が国の人口構成を考慮)	
若い人の層（15～19歳）	10名
中間層（20～64歳）	120名
高齢層（65歳以上）	70名

意識調査の実施方法

集計方法：調査は各都道府県で200名を対象に行ったことから、9,400名の回答について人口動態に応じた集計を行うため、47都道府県の人口比率（人口推計（2023年（令和5年）10月1日現在）を活用）に応じたウェイトバック集計を実施。

調査実績値

	若い人の層	中間層	高齢層	全年齢層(合計)
北海道	10	120	70	200
東北	60	720	420	1,200
関東甲信	90	1,080	630	1,800
東海	40	480	280	800
北陸	40	480	280	800
近畿	60	720	420	1,200
中国	40	480	280	800
四国	40	480	280	800
九州北部	60	720	420	1,200
九州南部	20	240	140	400
沖縄	10	120	70	200
全国（合計）	470	5,640	3,290	9,400

集計用の補正後の値

	若い人の層	中間層	高齢層	全年齢層(合計)
北海道	18	229	144	391
東北	30	367	238	635
関東甲信	168	2,298	1,049	3,515
東海	58	691	354	1,103
北陸	19	220	139	378
近畿	78	951	503	1,531
中国	23	257	154	434
四国	13	153	105	272
九州北部	44	498	301	843
九州南部	10	108	75	193
沖縄	7	68	30	105
全国（合計）	468	5,840	3,092	9,400

注：地域別のサンプルサイズの特徴を端的に表現するために、予報区に分けて表記した。

ウェイトバック集計とは
回収サンプルを母集団の構成に合わせて集計すること。
母集団と回収サンプルの構成比が異なる場合に、各属性の抽出率や回収率の違いを補正し、代表性を担保する目的で用いられる。
国勢調査などの代表的なオープンデータを元に集計値をウェイトバックすることが多い。

意識調査の実施方法

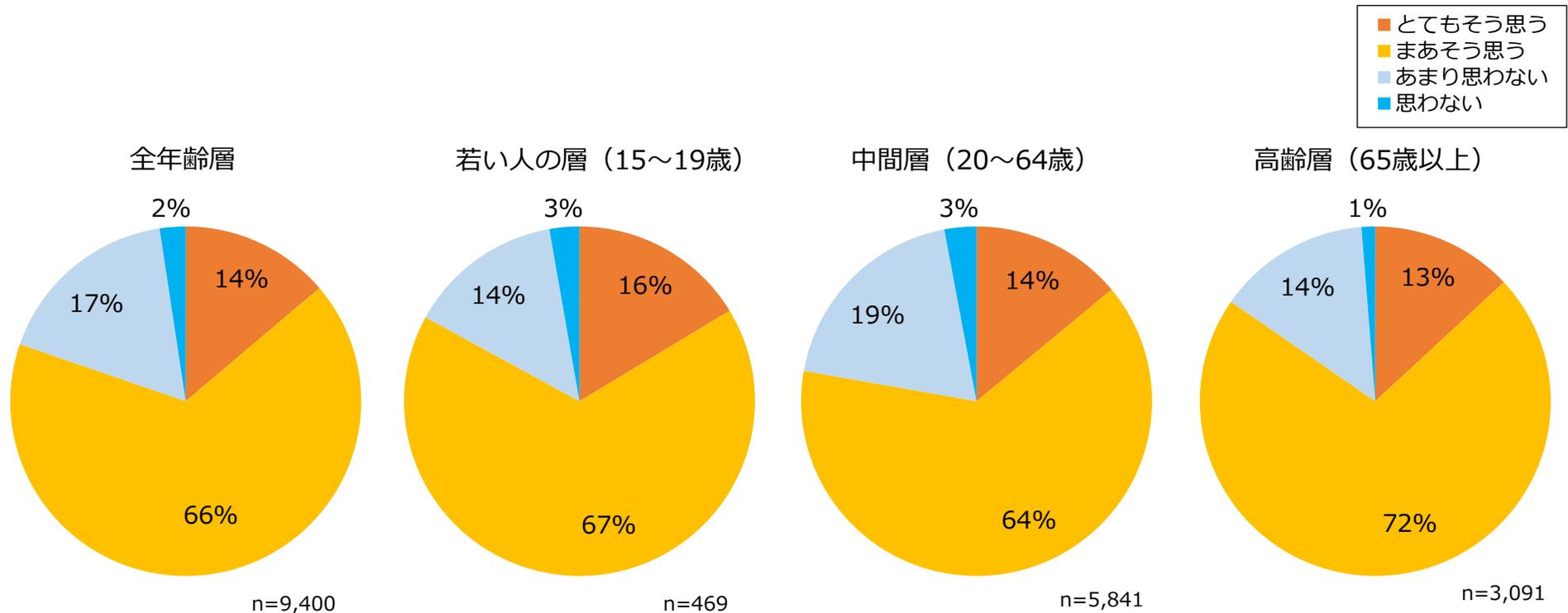
【調査項目】

熱中症対策について	1	「熱中症」に関する理解
	2_1, 2_2	熱中症の予防行動に関する理解
	3_1, 3_2	見守りや声かけによる意識の変化
	4	熱中症にかかりやすい特性を持つ人についての理解
	5	熱中症で亡くなる方についての理解
	6	熱中症で亡くなる高齢者についての認知
暑さ指数（WBGT）等について	7_1, 7_2	「暑熱順化」についての認知
	8_1, 8_2	「暑さ指数」についての認知
熱中症警戒アラート、熱中症特別警戒アラートについて	9	熱中症警戒アラートについての認知
	10	熱中症特別警戒アラートについての認知
クーリングシェルターについて	11	クーリングシェルターの指定についての認知

「熱中症」に関する理解

Q1 熱中症とは、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）の減少や血液の流れが滞るなどして、体温が上昇して重要な臓器が高温にさらされたりすることにより発症する障害の総称です。あなたは、「熱中症」について理解していると思いますか。

- 全年齢層では、「とてもそう思う（14%）」と「まあそう思う（66%）」を合わせて**8割が「熱中症」について概ね理解**していると思っている。
- 若い人の層、中間層及び高齢層ともに、全年齢層と同様の傾向が見られた。



※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。

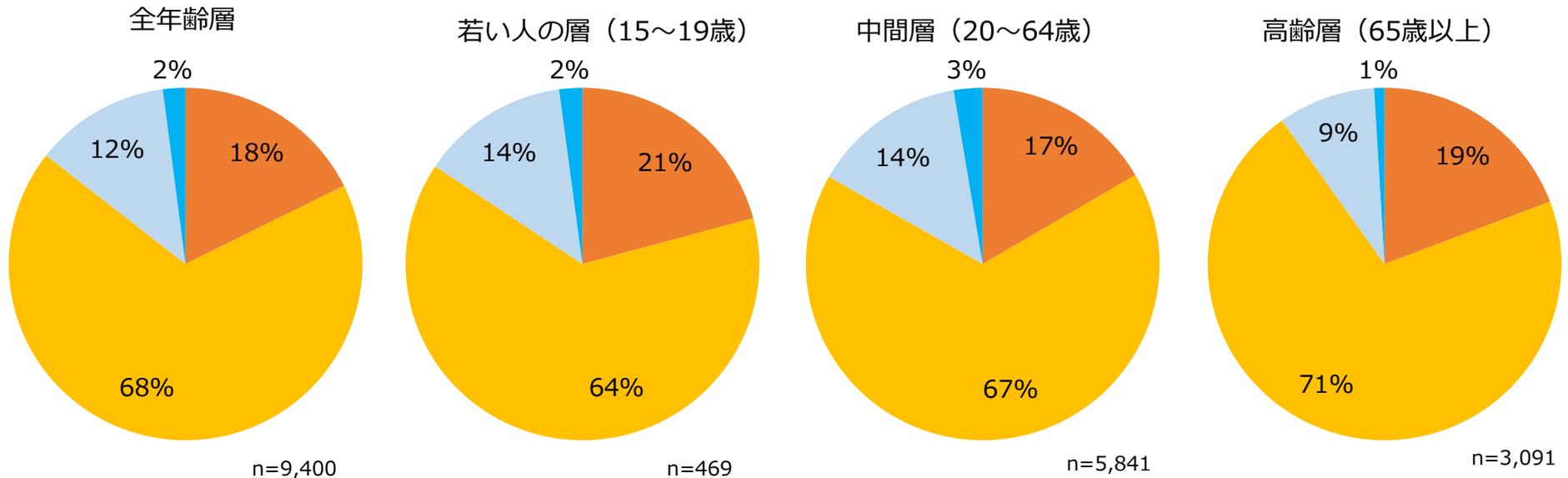
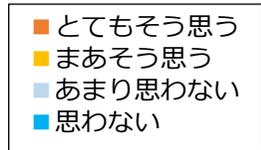
熱中症の予防行動に関する理解（1）

Q2_1 環境省では、あなた自身が熱中症を予防するための行動として、熱中症警戒アラート※の確認、適切なエアコンの使用、こまめな水分・塩分補給等を推奨しています。

※環境省が、熱中症の危険性が極めて高いことが予想される際に、国民に熱中症を予防する行動を促すために発表する情報を、「熱中症警戒アラート」といいます。

あなたは「熱中症警戒アラート」が発表された時などにおいて、熱中症を予防するためにどのような行動をとればよいかについて理解していると思いますか。

- 全年齢層では、「とてもそう思う（18%）」と「まあそう思う（68%）」を合わせて**9割弱が熱中症の予防行動について理解している**と思っている。
- 若い人の層、中間層及び高齢層ともに、全年齢層と同様の傾向が見られた。

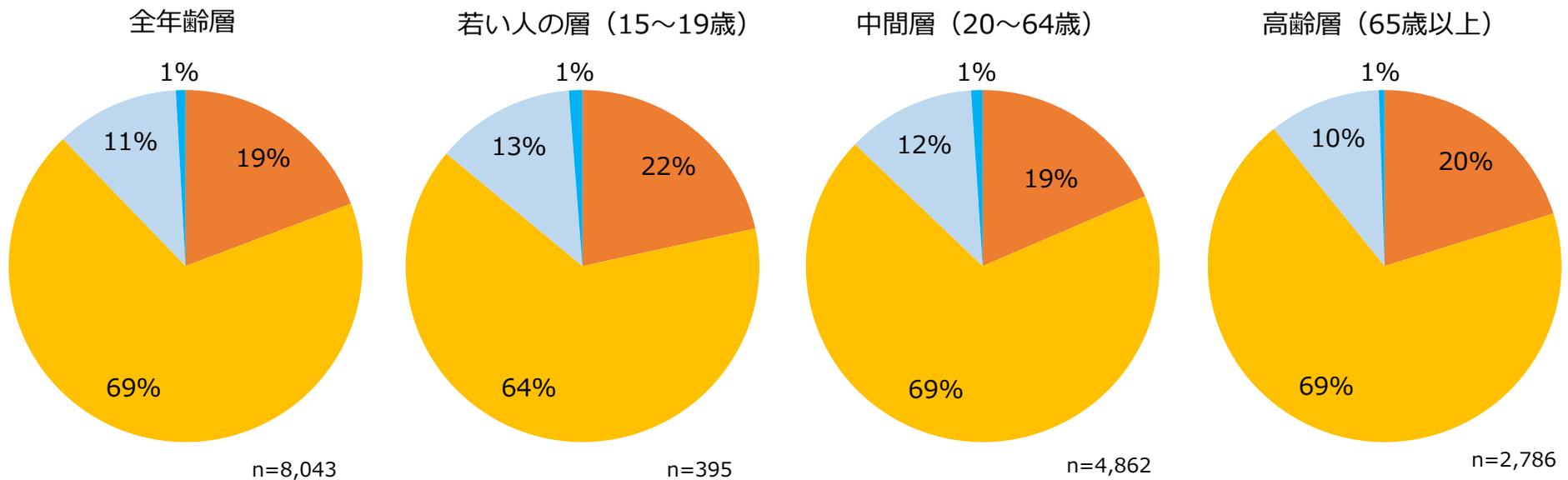
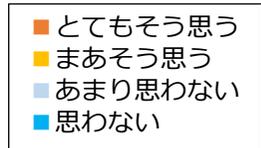


※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。

熱中症の予防行動に関する理解（2）

Q2_2 前問で「とてもそう思う」または「まあそう思う」と回答した方にお伺いします。
あなたは、普段から熱中症を予防するための行動を心掛けていますか。

- 全年齢層では、熱中症の予防行動について概ね理解していると思う人のうち、「とてもそう思う（19%）」と「まあそう思う（69%）」を合わせて**9割弱が熱中症の予防行動を普段から心がけていると思っている**。
- 若い人の層、中間層及び高齢層ともに、全年齢層と同様の傾向が見られた。



※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。

見守りや声かけによる意識の変化（1）

Q3_1 環境省では、熱中症を予防する行動として、あなた自身が熱中症警戒アラート※の確認、適切なエアコンの使用、こまめな水分・塩分補給を推奨することに加えて、周囲の方の熱中症を予防する行動として、周囲の方に対して熱中症を予防する行動について「見守り・声かけ」を行うことを推奨しています。

※環境省が、熱中症の危険性が極めて高いことが予想される際に、国民に熱中症を予防する行動を促すために発する情報を、「熱中症警戒アラート」といいます。

あなたは、他の方から熱中症を予防することについての見守りや声かけを受けたことがあると思いますか。

- 全年齢層では、3割以上が見守り・声かけを受けたことがあると思っている。
- 若い人の層では見守り・声かけを受けたことがあると思う人の割合が6割以上であり、中間層及び高齢層に比べて見守り・声かけを受けたことがあると思う人の割合が約30%高くなっていた。

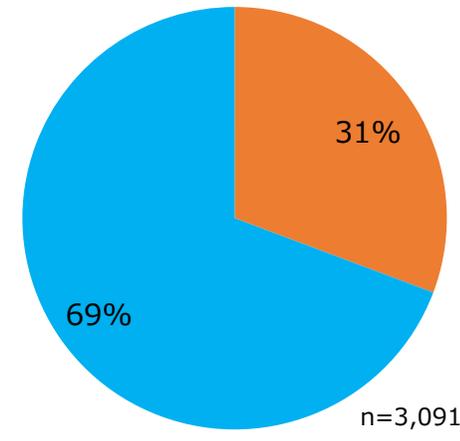
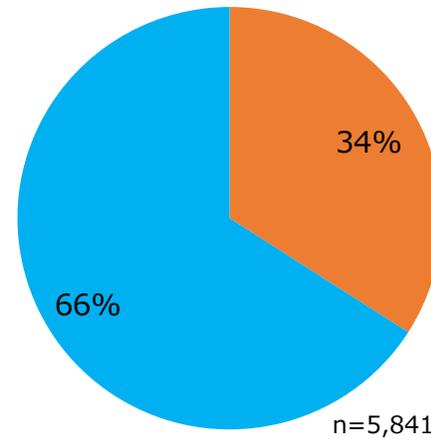
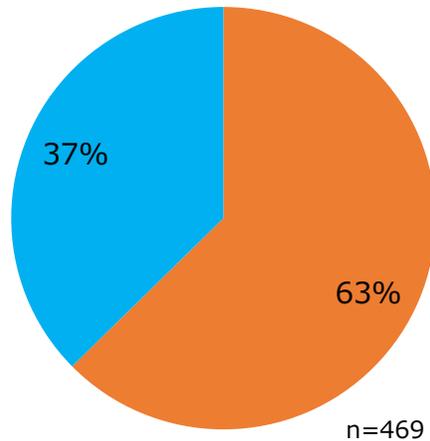
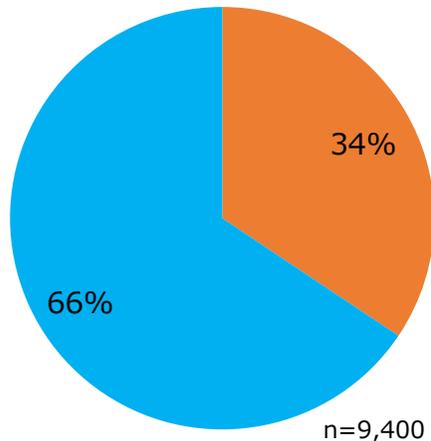
■ 熱中症に関して見守り・声かけを受けたことがあると思う
■ 熱中症に関して見守り・声かけを受けたことはないと思う

全年齢層

若い人の層（15～19歳）

中間層（20～64歳）

高齢層（65歳以上）



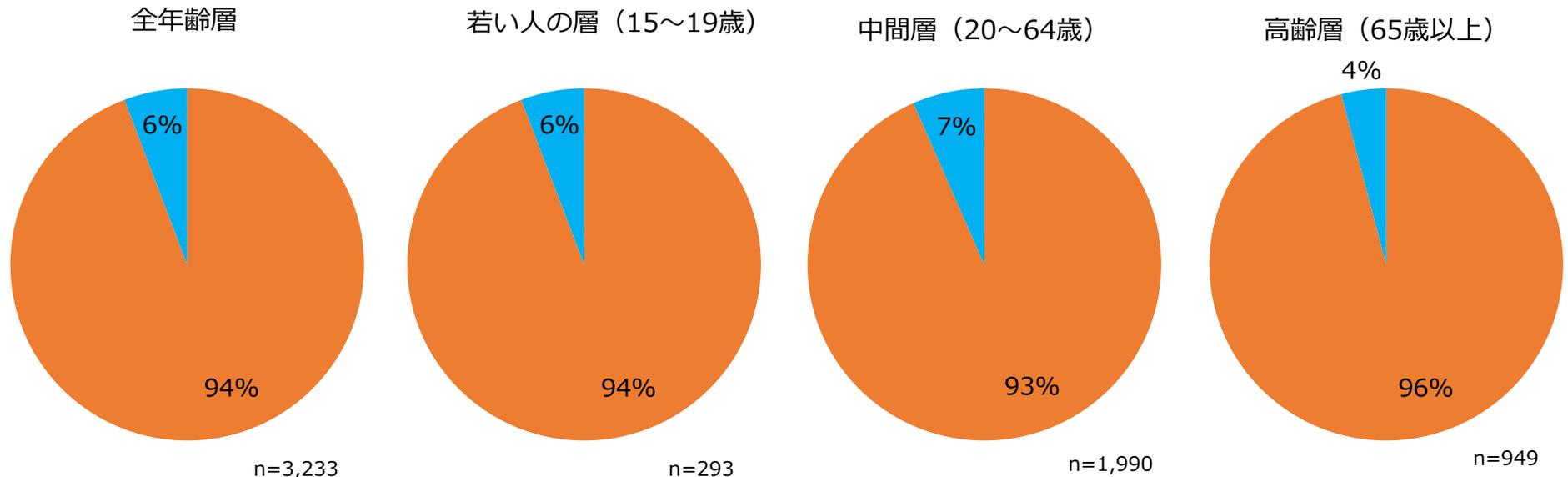
見守りや声かけによる意識の変化（2）

Q3_2 前問で「熱中症に関して見守り・声かけを受けたことがあると思う」と回答した方にお伺いします。

あなたが見守りまたは声かけを受けたことで、あなたの熱中症に関して意識の変化があったと思いますか。あなたの認識に近い回答を選択してください。

- 全年齢層では、**9割以上が見守り・声かけを受けたことで熱中症に関する意識の変化があった**と思っている。
- 若い人の層、中間及び高齢層ともに、全年齢層と同様の傾向が見られた。

■ 熱中症にならないよう、気をつけようと思った
■ 熱中症に関して意識の変化はなかった

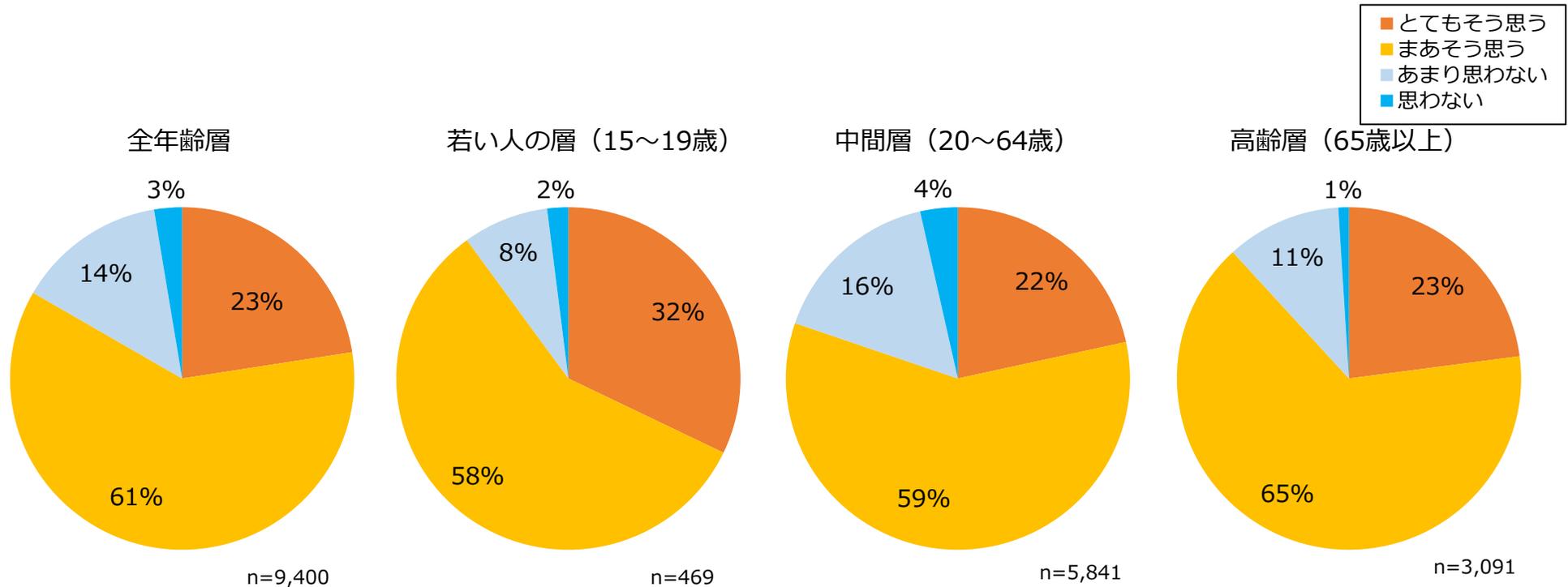


熱中症にかかりやすい特性を持つ人についての理解

Q4 熱中症にかかりやすい特性を持つ人達がいいます（高齢者、子ども、体力のない人、肥満の人、暑さに慣れていないなど）。

このことについて、あなたは理解していると思いますか。

- 全年齢層では、「とてもそう思う（23%）」と「まあそう思う（61%）」を合わせて**8割以上が熱中症にかかりやすい特性を持つ人達がいることを概ね理解している**と思っている。
- 若い人の層では、熱中症にかかりやすい特性を持つ人達がいることへの理解について「**とてもそう思う（32%）」と回答した人が3割以上であり、中間層及び高齢層よりも約10%高い。**

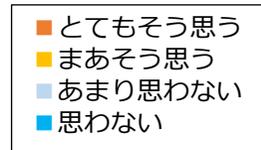


※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。

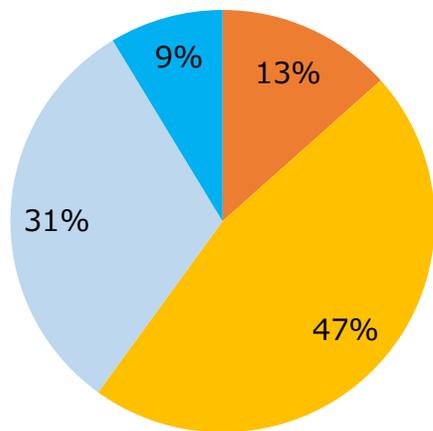
熱中症で亡くなる方についての理解

Q5 日本では、毎年、熱中症で亡くなる方が1000人以上います。
このことについて、あなたは理解していると思いますか。

- 全年齢層では、「とてもそう思う（13%）」と「まあそう思う（47%）」を合わせて**6割が毎年熱中症で亡くなる方が1000人以上いることを概ね理解している**と思っている。
- 年齢層別に見ると、**若い人の層では「とてもそう思う（20%）」と「まあそう思う（46%）」を合わせて7割弱、高齢層では「とてもそう思う（13%）」と「まあそう思う（50%）」を合わせて6割以上で毎年熱中症で亡くなる方が1000人以上いることを概ね理解している**と思っている。

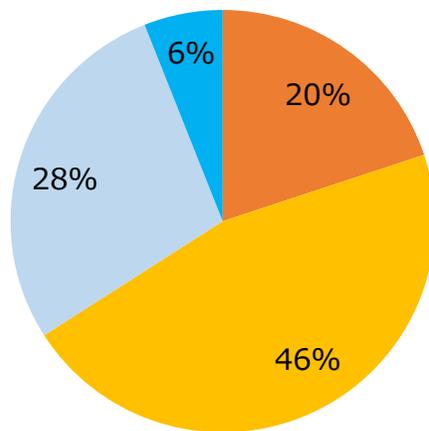


全年齢層



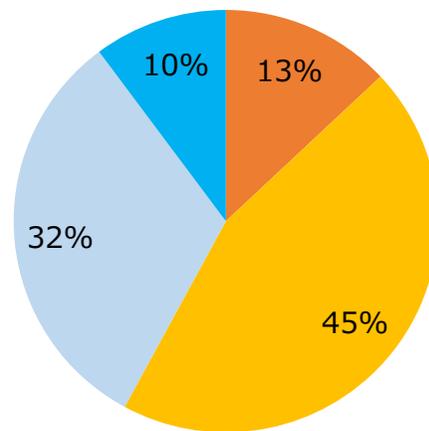
n=9,400

若い人の層（15～19歳）



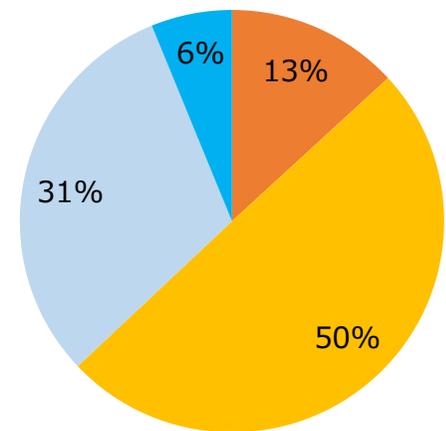
n=469

中間層（20～64歳）



n=5,841

高齢層（65歳以上）



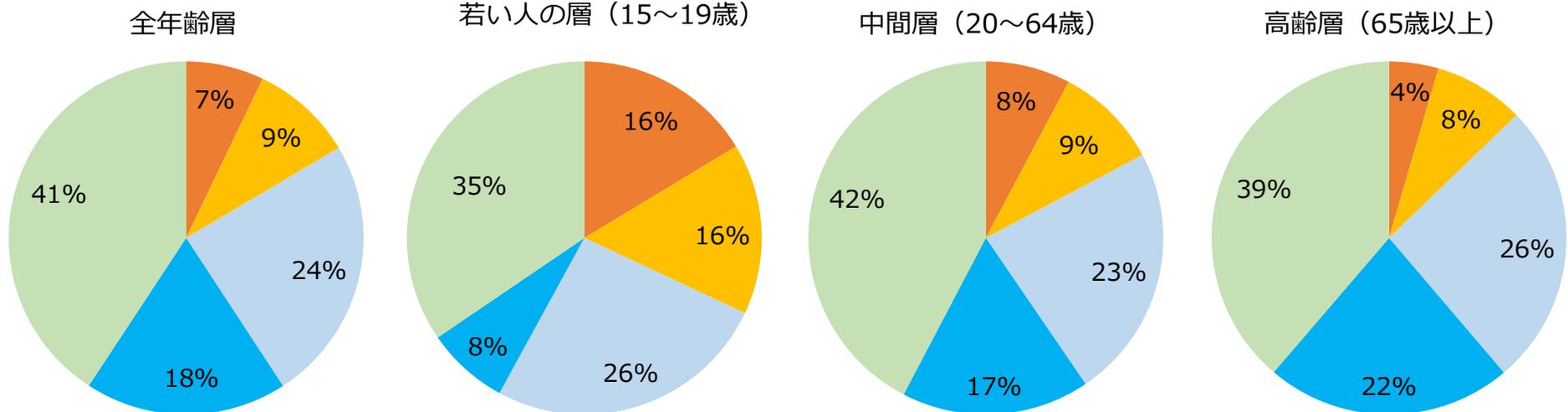
n=3,091

熱中症で亡くなる高齢者についての認知

Q6 日本において、熱中症で亡くなる方は、65歳以上の方が80%以上を占めています。このことについて、あなたはどのように思いますか。あなたの認識に一番近いものを選んでください。

- 全年齢層では、「思っていた通りであった（41%）」と回答する割合が高く、次いで「熱中症で亡くなる高齢者は、もっと少ない割合だと思っていた（24%）」、「熱中症で亡くなる高齢者は、もっと多い割合だと思っていた（18%）」となっている。
- 若い人の層では「熱中症で亡くなる方は、幼児や子どもが多いと思っていた（16%）」割合が中間層及び高齢層よりも高く、「熱中症で亡くなる高齢者は、もっと多い割合だと思っていた（8%）」割合が中間層及び高齢層よりも低くなっている。

■ 熱中症で亡くなる方は、幼児や子どもが多いと思っていた
■ 熱中症で亡くなる方は、青年～壮年（65歳未満）が多いと思っていた
■ 熱中症で亡くなる高齢者は、もっと少ない割合だと思っていた
■ 熱中症で亡くなる高齢者は、もっと多い割合だと思っていた
■ 思っていた通りであった



n=9,400

n=469

n=5,841

n=3,091

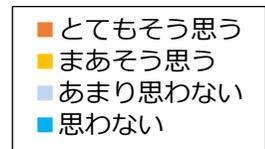
※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。

「暑熱順化」についての認知（1）

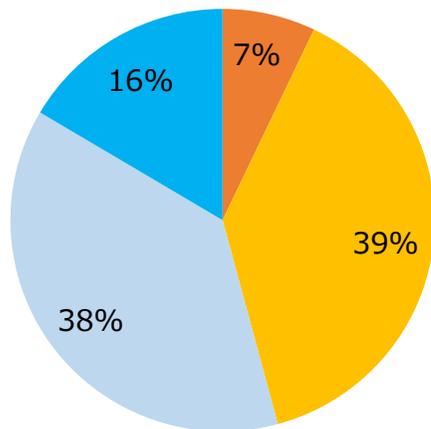
Q7_1 身体の機能が暑さに適応すること（=いわゆる暑さに強い体になること）を、「暑熱順化」といいます。

あなたは、「暑熱順化」について理解していると思いますか。

- 全年齢層では、「とてもそう思う（7%）」と「まあそう思う（39%）」を合わせて**5割弱が「暑熱順化」について概ね理解**していると思っている。
- 若い人の層、中間層及び高齢層ともに、全年齢層と同様の傾向が見られた。

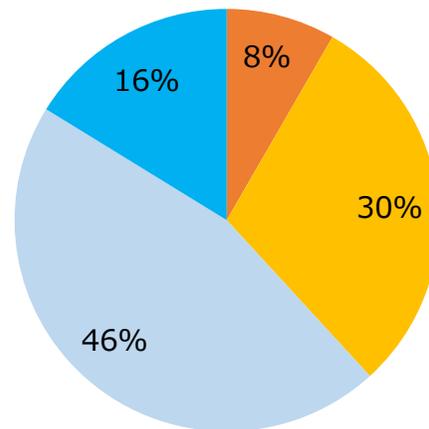


全年齢層



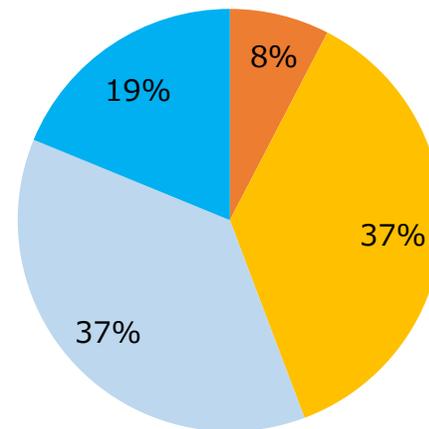
n=9,400

若い人の層（15～19歳）



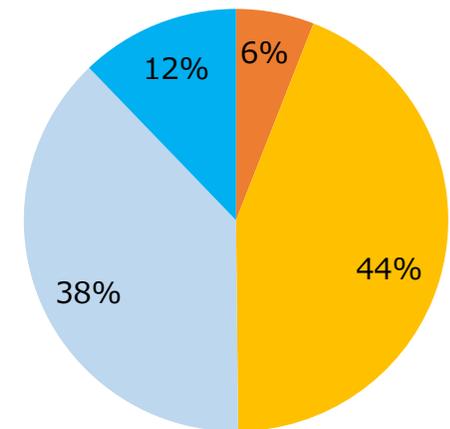
n=469

中間層（20～64歳）



n=5,841

高齢層（65歳以上）



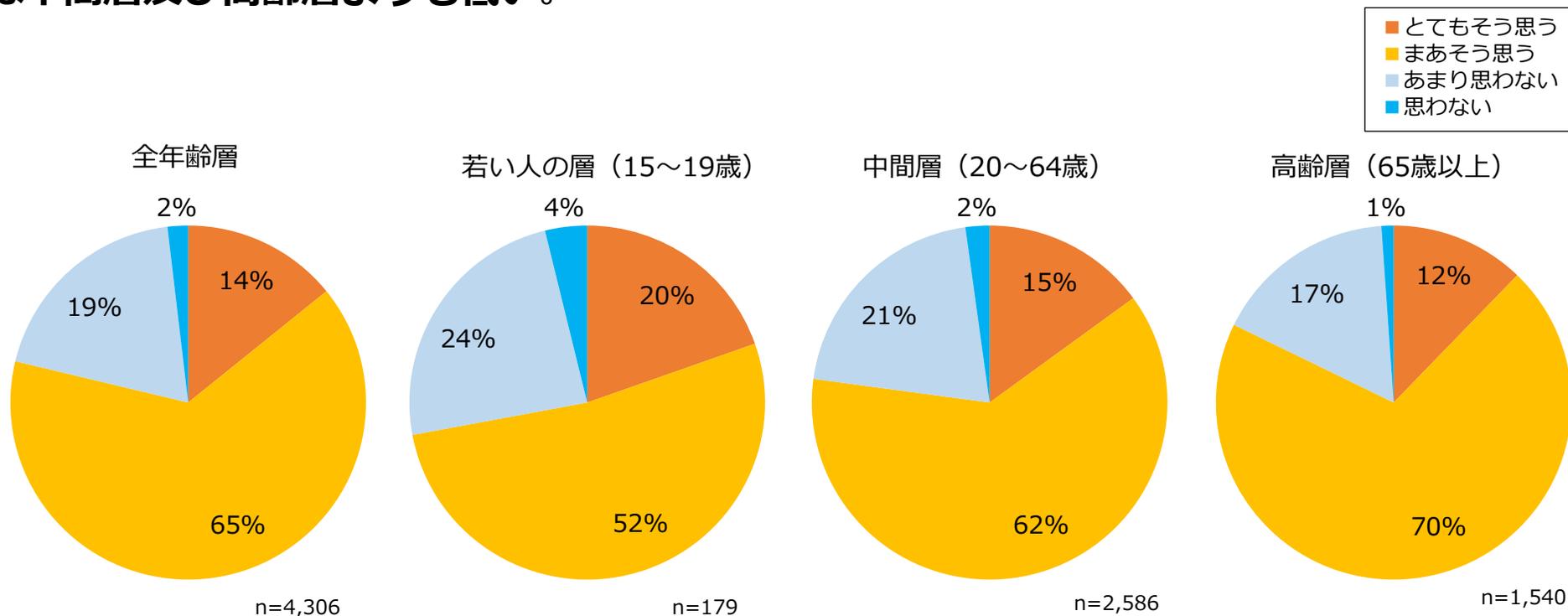
n=3,091

※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。

「暑熱順化」についての認知（2）

Q7_2 前問で「とてもそう思う・まあそう思う」と回答した方にお伺いします。
あなたは、「暑熱順化」を実践していると思いますか。

- 全年齢層では、「暑熱順化」について概ね理解していると思う人のうち、「暑熱順化」を実践していると思っているのは「とてもそう思う（14%）」と「まあそう思う（65%）」を合わせて8割弱。
- 年齢層別に見ると、若い人の層では「とてもそう思う（20%）」と「まあそう思う（52%）」を合わせて7割以上であり、「暑熱順化」を実践していると思っている人の割合は中間層及び高齢層よりも低い。

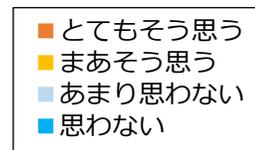


「暑さ指数」についての認知（1）

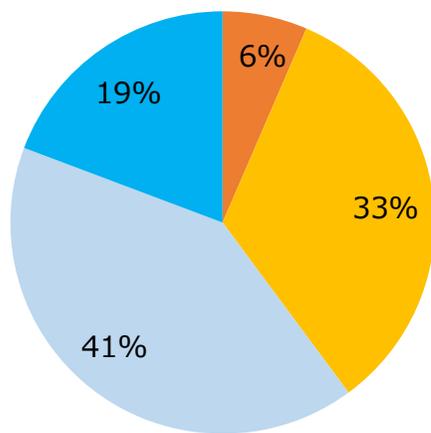
Q8_1 熱中症のかかりやすさの程度を示す指標として、「暑さ指数（WBGT：Wet Bulb Globe Temperature）」があります。

あなたは「暑さ指数」について理解していると思いますか。

- 全年齢層では、「とてもそう思う（6%）」と「まあそう思う（33%）」を合わせて**4割弱が「暑さ指数」について概ね理解している**と思っている。
- 年齢層別に見ると、**若い人の層では「とてもそう思う（13%）」と「まあそう思う（37%）」を合わせて5割が「暑さ指数」について概ね理解している**と思っている。

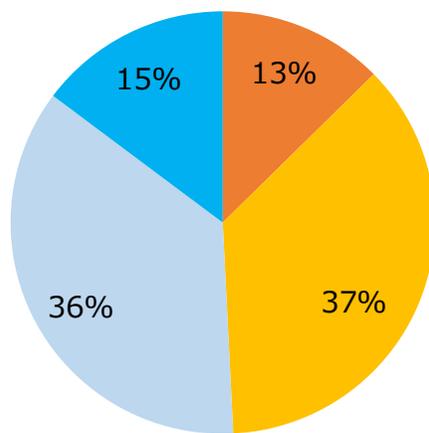


全年齢層



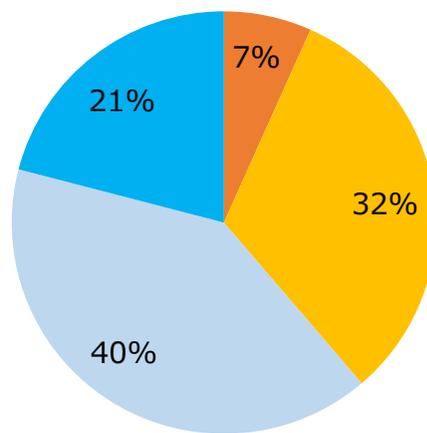
n=9,400

若い人の層（15～19歳）



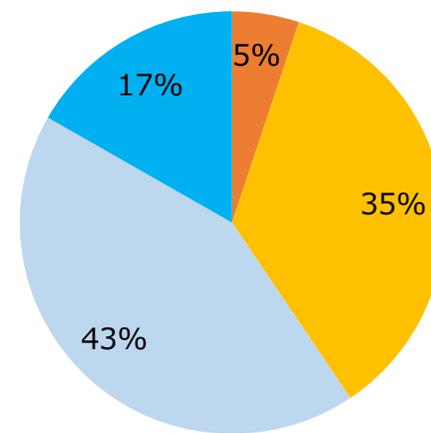
n=469

中間層（20～64歳）



n=5,841

高齢層（65歳以上）



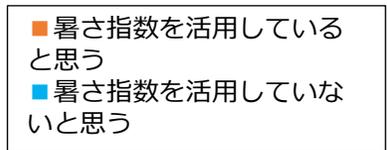
n=3,091

※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。

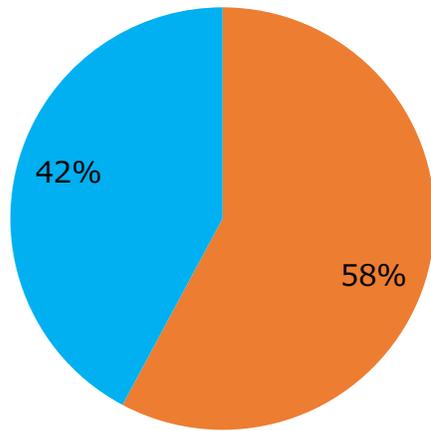
「暑さ指数」についての認知（2）

Q8_2 前問で「とてもそう思う・まあそう思う」と回答した方にお伺いします。
あなたは、夏の間、「暑さ指数（WBGT）」を活用していると思いますか。

- 全年齢層では、「暑さ指数」について概ね理解していると思う人のうち、**6割弱が夏の間「暑さ指数」を活用している**と思っている。
- 若い人の層、中間層及び高齢層ともに、全年齢層と同様の傾向が見られた。

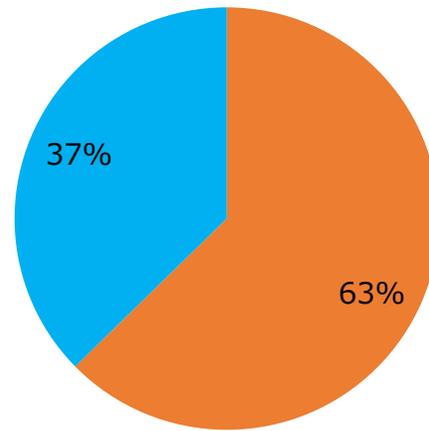


全年齢層



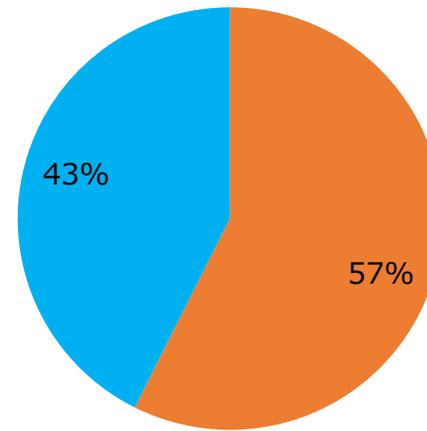
n=3,749

若い人の層（15～19歳）



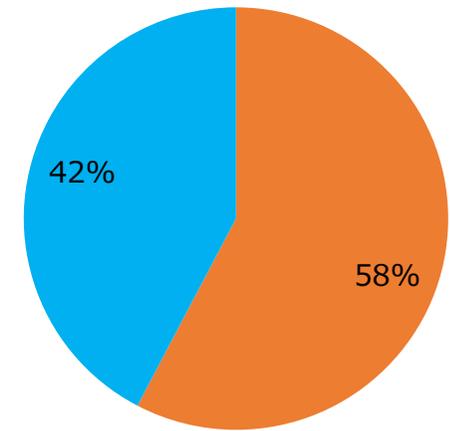
n=231

中間層（20～64歳）



n=2,264

高齢層（65歳以上）

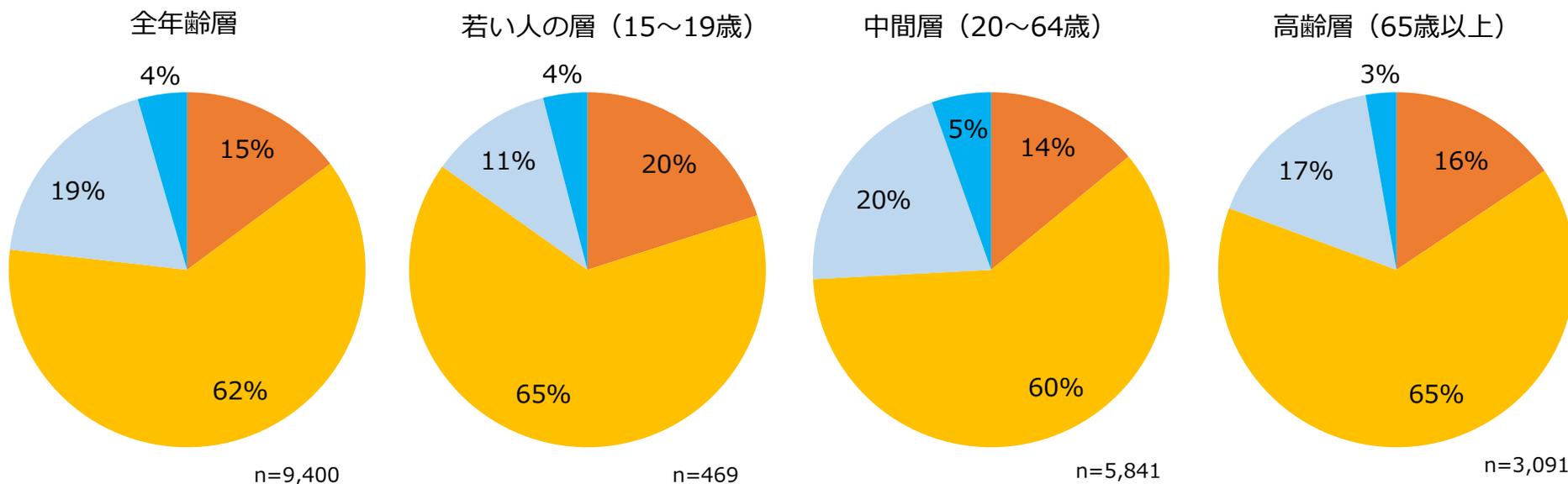
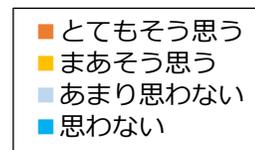


n=1,255

熱中症警戒アラートについての認知

Q9 環境省が、熱中症の危険性が極めて高いと予想される際に、国民に熱中症を予防する行動を促すために発表する情報を、「熱中症警戒アラート」といいます。
あなたは「熱中症警戒アラート」を理解していると思いますか。

- 全年齢層では、「とてもそう思う（15%）」と「まあそう思う（62%）」を合わせて**8割弱**が「熱中症警戒アラート」について概ね理解していると思っている。
- 若い人の層、中間層及び高齢層ともに、全年齢層と同様の傾向が見られた。

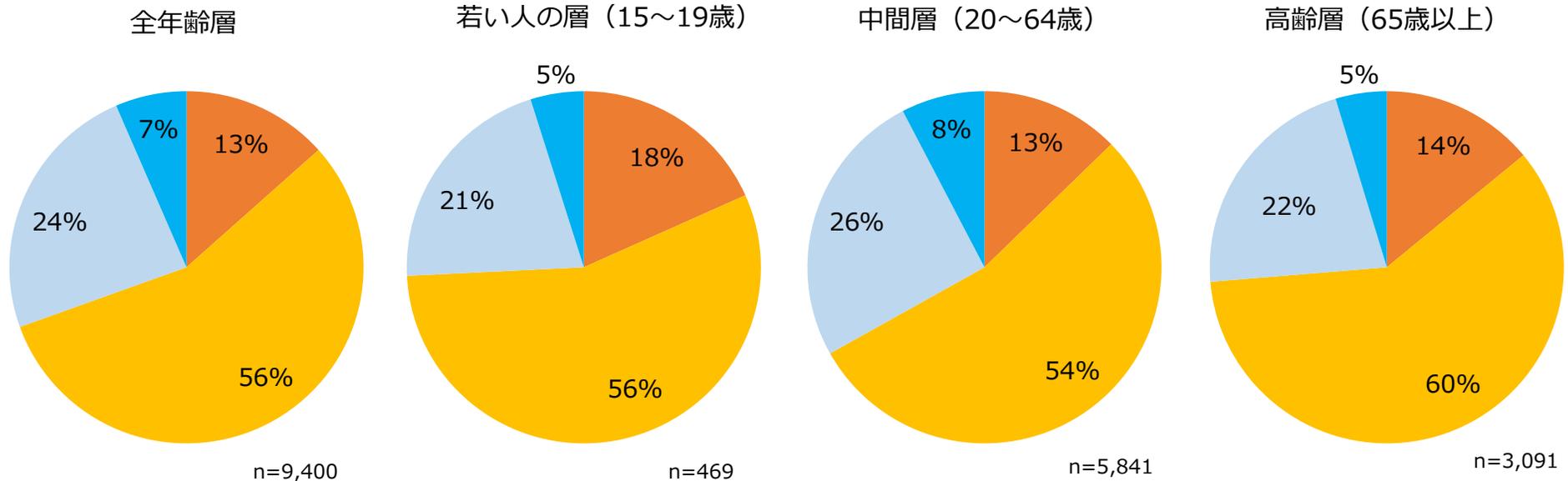
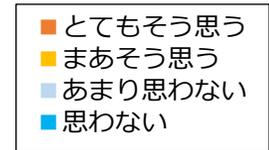


※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。

熱中症特別警戒アラートについての認知

Q10 環境省が、「熱中症警戒アラート」が発表される際よりもさらに熱中症の危険性が高くなると予想される際に、発表する情報を「熱中症特別警戒アラート」といいます。あなたは「熱中症特別警戒アラート」を理解していると思いますか。

- 全年齢層では、「とてもそう思う（13%）」と「まあそう思う（56%）」を合わせて**7割弱**が「熱中症特別警戒アラート」について概ね理解していると思っている。
- 若い人の層、中間層及び高齢層ともに、全年齢層と同様の傾向が見られた。



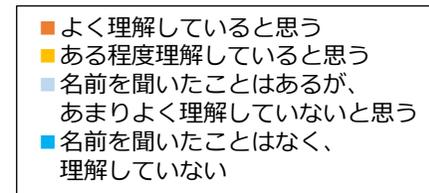
※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。

クーリングシェルトアの指定についての認知

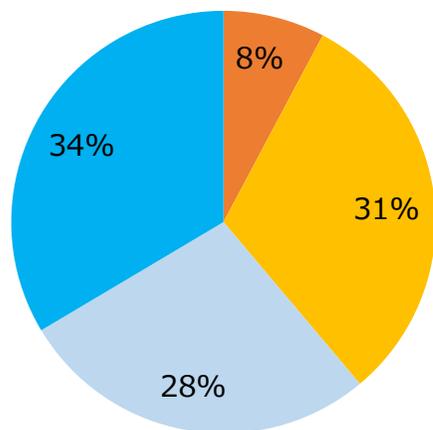
Q11 熱中症を予防するために、市区町村が暑さをしのぐ施設として、クーリングシェルトアを指定するという制度が始まっています。

あなたは「クーリングシェルトア」の制度を理解していると思いますか。

- 全年齢層では、「とてもそう思う（8%）」と「まあそう思う（31%）」を合わせて**4割弱が「クーリングシェルトア」の制度を概ね理解している**と思っている。
- 若い人の層、中間層及び高齢層ともに、全年齢層と同様の傾向が見られた。

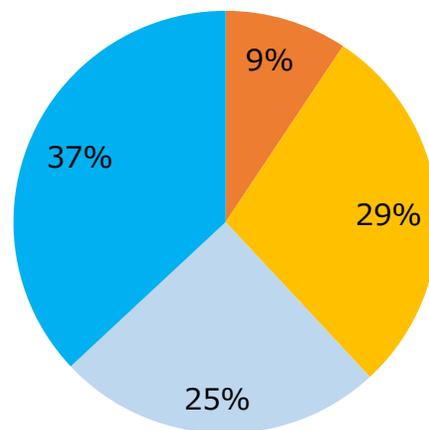


全年齢層



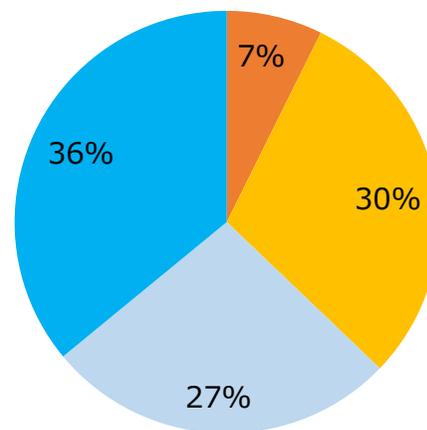
n=9,400

若い人の層（15～19歳）



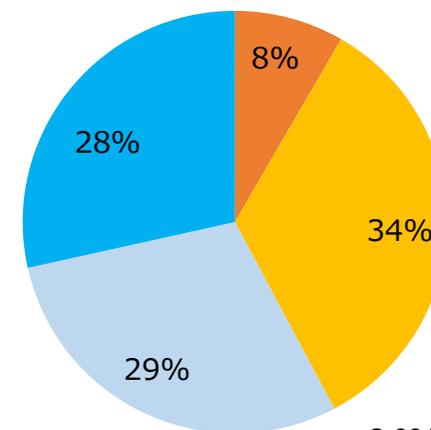
n=469

中間層（20～64歳）



n=5,841

高齢層（65歳以上）



n=3,091

※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とはならない場合がある。

考察①

- **意識調査の結果、「熱中症」を概ね理解していると思う人の割合は全年齢層で8割であり、熱中症に関する認知度は全年齢層において高い。（Q1参照）**
- **熱中症の予防行動を概ね理解していると思う人の割合は全年齢層で9割弱であり、このうち9割弱が予防行動を普段から心がけていると思っている。（Q2参照）**
 - **熱中症の予防行動については、全年齢層において高い割合で理解されており、理解していると思っている人においては、予防行動を心がけている人が多数である。**
 - ⇒ **少数の理解していないと思う人や予防行動を心がけていないと思う人へのアプローチが必要**
- **熱中症の予防を目的とした「見守り・声かけ」を受けたと思う人の9割以上が熱中症に対する意識の変化があったと思っている。（Q3参照）**
 - **見守り・声かけは、熱中症予防の意識向上に資すると考えられる。**
- **全年齢層の8割以上が熱中症にかかりやすい特性を持つ人達がいることを概ね理解していると思っている。一方で、「熱中症で亡くなる方が65歳以上の方が80%以上を占める」という実態に対しては、全年齢層の4割弱が、実態とは異なる認識である。（Q4・Q6参照）**
 - **熱中症で死亡される方の多くが高齢者であることについて、情報発信を強化する。**
 - ⇒ **特に高齢の方御自身に、熱中症で死亡される方の多くが高齢者であることについての理解をより集中的に高めていく必要がある。**

考察②

- 「暑熱順化」を概ね理解していると思う人の割合は、全年齢層の5割弱で、このうち暑熱順化を実践していると思う人の割合は全年齢層で8割弱。（Q7参照）
→暑熱順化の有効性や意義について情報発信を行い、実践する人の拡大を図っていく必要がある。
- 「暑さ指数」、「熱中症警戒アラート」、「熱中症特別警戒アラート」及び「クーリングシェルター」について概ね理解していると思う人の割合は全年齢層では4割弱～8割弱。（Q8～11参照）
→暑さ指数、熱中症警戒アラート、熱中症特別警戒アラート及びクーリングシェルターについて、引き続き、情報発信や普及啓発を行っていく。
- 地域別の結果においては、地域によって大きな差は見受けられなかった。
（詳細データについては参考資料6を参照）